

## 常葉大学社会環境学部の学生が自衛隊の災害派遣について学ぶ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は2月1日（木）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）において常葉大学社会環境学部の学生たちに防災教育を行った。

これは、同大学から授業の一環として「防災行政論」の講話を行ってほしいという依頼を受け実施したもので、学生88人が駐屯地を訪れた。

まず静岡地本本部長・武田恭一 一等空佐が自衛隊全般について説明を行い、その後、陸海空の自衛官が講師として登壇した。

第34普通科連隊副隊長・石田航2等陸佐は、陸上自衛隊の災害派遣活動や、同連隊の静岡県内・能登半島での活動内容などを紹介した。

海上自衛隊である静岡地本伊東地域事務所長・藤井隆裕1等海尉は、「艦艇は自己完結できるため被災地のインフラに依存しない」「道路の寸断などがある場合、海からのアクセスが有効」といった海上自衛隊の災害派遣の特徴について説明した。

航空自衛隊は静岡地本浜松出張所長・有吉将人1等空尉が講師を務め、県内で行った災害派遣活動や、自衛官とともに活躍する災害救助犬を紹介した。

防災教育の中でも特に、自衛隊の「構想、立案、実施」という流れは環境や危機管理などを考える同学部における教育内容にも通じるもので、学生たちは熱心に学んでいた。

防災教育後は駐屯地の資料館や施設の見学も行い、学生からは「防災や危機管理に関する視野を広げることができた」「災害派遣活動の動画を見て、頼もしく感じた」「社会環境学部の学生として、今後自分に何ができるか考えさせられた」という声が聞かれた。

静岡地本は、今後も部隊や学校と協力して自衛隊の活動への理解促進を図っていく。



## ステージイベントや体験で自衛隊をPR 富士山樹空の森まつり



高機動車体験試乗



地本ブース

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 一等空佐）は2月23日（金）、富士山樹空の森（御殿場市）で開催された第4回富士山樹空の森まつりで広報活動を行った。

これは、富士山の日である2月23日に「富士山に関する情報発信」「自衛隊との交流」「地域活性化」を目的として開催されているもので、今回自衛隊は87式偵察警戒車・小型トラック・救急車の展示、高機動車の体験試乗、止血法・応急担架搬送体験、富士学校音楽隊・第34普通科連隊らっぱ隊の演奏会などを行った。

県内を中心に多くの来場者が訪れ、間近で見る自衛隊の装備品に関心を寄せたり、隊員と一緒に写真を撮るなど、当日は荒天だったものの会場は大いに賑わった。

静岡地本は広報ブースでオリジナル缶バッジの配布を行い、子どもたちが自衛隊の航空機、艦艇、車両等から好きな柄を菜しげに選んでいた。

会場内のステージには第34普通科連隊の軽装甲機動戦士「イタツマン」、滝ヶ原駐屯地の「たきすけ」、樹空の森の「じゅくちゃん」、全国的に有名な「ふなっしー」といったキャラクターが時間差で登場したほか、ふなっしーと第34普通科連隊長・兜智之1等陸佐の軽快なトークショーや富士学校音楽隊と第34普通科連隊らっぱ隊の演奏も行われ、来場者の注目を一気に集めた。

イベントを楽しんだ子どもたちは「自衛隊の車に乗れて嬉しかった」「けがをしても担架で自衛隊さんが助けてくれる」と満足げな様子だった。

静岡地本は、今後も自衛隊への理解を深めてもらえるよう広報活動を継続していく。